

香をなし近親之に引續いて焼香をし、會葬者は近親が終つてから行ひ退散します。

焼香の仕方 佛を拜します時は合掌して焼香をします。そしてその仕方は、佛靈の前凡そ三尺の所で止まつて拜禮し、更に三步進んで拜し、懐から香包を出し、香包を持たぬ時は香入れの香を使ひます。その香を捻り、三回香爐に燻べ、拜して退きます。その時席に控へた僧侶のある時は一體して退きます。

神葬式 殯の式、家族近親は殯の室に忌み籠り、靈が傍らに在つて専ら生きてゐる者に對すると同じ心持ちでとりなします。死人の顔を覆ひまして屍を平かに眞直にして枕をさせ、清淨な衣服を着せ、蒲團

を持ち、傍らに刀臺を置き、守刀をかけて置きます。そして入棺は大同小異であります。入棺が終つたら先づ棺を祭前に送り、棺前に祭壇を設け、祭壇の下には新菰を敷き、神饌、鹽、水その他山海の天然物を白木の三寶にのせて供へ、神官祓清めを行ひ祭文を読みます。(この時葬主その他は起立して靜肅に謹聽するのです) 神官の祭文が終りますと、會葬者が出て祭文、誄詞を読み、終れば神官の指示により、葬主近親その他會葬の順に玉串を捧げます。その玉串は神官が一人一人に渡すのです。

玉串の捧げ方 略して拍手のみをすることがあります。玉串を捧げる時は、神官から渡された玉串を右手に持ち、左手を添へて進みま

す。八尺机から、凡そ三尺程の處に止まつて、左掌の上で玉串を向うへ向け直して、机の上に置きます。そして拜します。柏手は二度打ちます。この時神官立合の時は、退く時その方に向つて一禮します。

地鎮祭祭場の四隅に齋竹を挿し立て、端出之繩を引きわたし、その内新蓆を敷き、その奥に神床を設け、神籬を立て、神に木綿をたれ二所に挿し立て、その前に饌案を据ゑます。

キリスト教主義の葬儀　キリスト教と申しましても、舊教と新教とありまして、その舊教のうちにもギリシヤ教とローマ舊教の別があります。新教のうちでも英國監督教會派やメソヂスト派や組合派や、最も形式を無視するユニテリアンなどの別はありますが、大體に就いて

申しますと、次の様であります。棺は大概臥棺を用ひ、手を十字に組ませ、死屍の周圍に花と青葉とを以て埋め、櫃の上に黒又は黄金色の布をかけます。かように華麗なものを用ひますのは、死者の光榮とその復活とを祈る意味であります。そして葬儀は教會堂、司會者は牧師で、牧師は信者と共に最後の祈りを捧げた上、死者の前途の光榮を讚美し、(この時死者の親族友人等は棺に對し最後の告別をいたします)次に死者の履歷を朗讀し、祭文を朗讀し、追悼の演説をし、再び讚美歌を唱へて式を終るのであります。

葬主の定め方　親の死の時は子。婦、兄、弟が死んだ時は、弟妹を葬主。子が親に先だつた時に、母親のみの時は弟。婦が死んでその子

許りの時はその子。子もない時は最も近い親族が葬主となります。伯父叔母の家にあつて死んだ場合、又は弟妹などの死んで、その下に立つ人がない時は兄、姉でも葬主となりますが、何れの者が死んでも葬主に立つ人が幼い時は介添人を選びます。

忌明後の心得 葬儀に列した人に對しては挨拶を述べ、香奠、花料等を贈つた人に對しては地方により、又、家によつて異なりますが、大抵は、香奠がへしとして蒸物、餅、袱紗その他相當の物品を贈つて挨拶をします。近來香奠返しを廢して、その料を公共の事業に喜捨する人も澤山ありますが、かような方法を取つた場合は、その旨を香奠を贈られた人々に通知せねばなりません。

記念分けの注意 死者の生前に使つた衣服、調度等を近親者及び知人に願つて、死者の記念とするためのものですから、その品物の善悪多少は別として、その死者の生前愛好したもの、即ち詩歌、書畫、衣類等を願ちます。

會葬者の心得 靜肅に棺に従つて行くのを禮とします。近來華美な服裝をする者もありますが、これは慎まねばなりません。出來得るだけ質素にすべきであります。

祭祀供養 神道では、十日、二十日、三十日、四十日、五十日、百日、に祭事を行います。略して十日祭、五十日祭としまして、又一年に一周忌、三年祭、五年祭、五十年祭、百年祭、二百年祭等をいたし

ます。又佛道では初七日、二七日、三七日、に供養をして四拾九日には中陰といひ、一周忌、三年、七年等に供養を營むを例とします。

社交上起居の作法

◇立ち方 體を眞直にして、兩方の手を少し斜めに股の所に添へ、姿勢を整へてから腰に力を入れ、まづ左右の足先を爪立て、さうして後右の膝を立て、姿勢を崩さないやうに靜かに立上るのが法である。

◇歩き方 左足から歩き始めるのが法であるが場合によつては、右足から歩き出しても宜しい、後へ退る時は右の足端を右へ開き、左の足を廻し乍ら、體を斜に下座の方へ向け左の足から歩き出すのである。

手を兩股に添へて、一間を普通三步半位に、する／＼と靜かに歩むものである。大股に歩いたり、小走りをしたり、足音を立てたり、疊の縁や鬮を踏んだりすることは最も不作法の事としてある。又往來を歩くのにも、きよろ／＼傍見をしたり、喧しく下駄の音をさせたりするのは、見よくないばかりでなく作法にも違ふ。

◇坐り方 兩足の爪頭を揃へ、膝頭を合せて手は兩股に斜に添へ、左足を右足の半まで引き、まづ左の膝をつき、次に右の膝をついて靜かに音せぬやう坐る。手は指先の内に向く様にして斜に膝の上に置くか或は兩方の手を組み合せて膝に置くか何れでも宜しい。貴人の前では手を膝に置かず、左右とも指先を前にして疊に着けてをるのが作法で

ある。

◇腰のかけ方 凡て椅子にかける時は、長上の命を持つて後すべきもので、先づ一旦其前に静かに腰をおろして、兩足を揃へて前へ出過ぎない様にする。又大きい椅子の片隅に、窮窟さうにしてるのもよくないが、もたれによりかゝつて反身になり臂かけに兩臂を張つて廣がつて居るのも、無作法の甚だしいものである。貴人の前でなければ、足を膝頭の所で軽く組む位はよろしい。また禮を爲す場合には必ず椅子を離るべきである。

◇坐禮 坐禮は全身を平にする心持で行ふべきもので、兩手の指頭を膝の前に揃へ、臂をも下に着け八字形にし、額をこの手の合せ目につ

ける様にして静かに頭を下げるのである腰が高く上がったたり、首のみ下げて首筋の明いて見えるのは、此上もなく見苦しいものである。

◇人の前を過ぐる時の心得 貴人若し坐つて居らるゝ時には、己れも其方に向き坐り直つて一禮し、立ち乍ら體を屈めて行き過ぐるべきものである。同輩の時には片膝をつき、そと會釋して過ぎてよし、急ぎの時ならば唯目禮して通つても差支へがない。人の前を通るのを何でも失禮と心得、後の狭い所を通り、人に迷惑をかけるのは却つて失禮の至りである。

◇座敷出入の作法 座敷は普通床に近き方を上とし、入口に近き方を下とすべきであるが間取の工合で一様には行かない。さて座敷へ出入

するには、必ず下座の方よりし、戸障子は勉めて静かに開閉すべきである。初めから開いて居たならば其儘でも宜しいが、閉つて居つた場合には、必ず元の如く閉めて置くべきで、又出入ともに閤を踏まぬ様氣をつけねばならぬ。

◇戸障子の開閉 先づ引手の前に斜に坐し、右へ開かうとする場合には、左手を下に着き右手を引手にかけて、二寸ばかり開いた後、更に右の手を着き、左手を下から三四寸の所にかけて静かに開けるのが作法である。閉める時も同じく引手の前に斜に坐し、右へ閉づるには左手を下に置き、右手を以て襖の下より二三寸の所を持つて閉め、一二寸ばかりの所にて手をつかへ左手を引手にかけて閉め切る。左へ開けた

り閉めたりするのは、すべて前と反對にすれば宜しい。洋風室の開戸ならば、右手に把手を握り、十分に捻つて音を立てないやうに開け、體を旋らして反對の側に立ち又静かに把手をとつて閉づるのである。

◇案内の仕方 別間とか、庭園とか、便所とかへ人を案内するには、まづ自ら先きに立つて導くのである。又貴人を便所に案内した時には己れ先づ戸を開いて内の様子を見廻し、それから貴人を入れ、己れは聲の届く程の所に控へて待つて居るべきものである。

物品取扱の方法

◇茶の進め方 茶碗を茶臺に載せ、両手に持つて客の前に跪き、體

を少し向ふへ進めて出すのである。此際注意すべきは茶臺を濡らさぬ事、茶臺を持返る必要ある時は茶を薦めたる儘暫く坐して、客が茶碗を取るのを待つべきである。若し客が氣附かざる時は黙つて歸るべきで、強て請ふのはよくない。

◇膳の出し方 臺の彼方を我が方に廻し、兩脚の中へ左手を入れて受け、右手で臺の縁を持ち、乳より稍高く捧げて持ち出し、客の二三歩前で静かに坐り下に置き、ゆがみなき様に直して立つて歸る。若し臺膳でない時は兩手にて縁を持つのである。すべて臺の縁の繼目が我前に来るやうにすることは云ふまでもない。

◇扇子小刀などの進め方 扇は要の方を我前にし左手に載せ右手を添

へて持出で、左の掌上で取廻し、扇の頭の所を右手に持ち、要を彼方へ向けて出す。團扇は右手に柄を持ち、左手にて裏を受けて進み、柄を彼方へ廻して出す、及物はすべて刃の方を左にし柄を彼方に向けて出すのである。其他は大凡そ扇の取扱方と同じである。

◇飯の盛り方 左手にて茶碗の縁底を持ち、杓子にて飯の中を少し左右に分け、二すくひか三すくひ、餘り高く盛り上がらないやう盛る。

◇酒の注ぎ方 酒を注ぐには、銚子なれば釣を右の手に持ち、左の手を下に添へ、燗德利なれば右手にて徳利の下の方を持ち、左の手にて其上を受けて盃に盛り溢れぬやうに静かに注ぐこと。

飯食の方法

一九六

◇膳の持ち方 据ゑ方、受け方、膳の持方は略ぼ膳の出し方と同様でありまして膳の受け方は膳を据ゑる人が、主人の内室とか子女とかならば、膳を下に置かない様に両手で受けて下に置き、両手をついて禮を云ふべく、又召使等ならば、唯挨拶するのみで宜ろし、引物を受ける時の心得も亦之と同じである。

◇飯のつき方 まづ食櫃を臺に載せ、其此方に杓子を置き、両手にて持出で、中座して蓋を取り、杓子を櫃の中に入れ、起つて客の前に行き、斜に上座の方に置き、右手に左手を添へて飯碗を受け、盛りて客

に薦め、もとの場合に歸るのである。

◇汁のかへ方 替碗に汁を盛りて、盆に据ゑて持ち出で、二丁の膳の前に坐り、本膳の汁碗を取り下げ、其あとに新しきものを進め取下げたものを持つて歸るのである。但二度目からは盆を持つて客の前に置き碗を取つて退き、汁を注ぎ替へて薦むるのである。

◇酌人の心得 先づ盆を退つて出たならば御客の方に置き、銚子を持ち來つて盃の側に跪づき、左手に盃臺を持ち、右手には銚子を持ち、三步ばかり後に退つて跪づく。かくて盃を始むべき人が定つたならば其人の前に銚子を持つて行くのである。それから酌の仕様は、先づ左の膝をつき、右の膝を少しばかり立て、酌ぐときだけ右の膝もとに

一九七

突くべきもので、これは幾度も同じやり方でよろしい。

◇盃の上中下 銚子、盃に上中下の區別がある。三方に載せて賜はるのは上、土器を小角に据ゑ酌人の左手に載せたのは中、銚子の口に土器を載せたのは下である。又上等な盃は銚子より上げて持ち、中等の盃は銚子と盃を同じ高さに持ち、下等のものは銚子より下げて持つが一般の禮である。

◇貴人に盃を呈するは失禮なり 目上の人に對しては、決して當方より盃を持つて行くべきものではない。敬意を表する爲ならば先輩の人は勿論其他初對面の人なら其人の前行き先づ盃を乞ひ受け、飲み干して後盃洗で洗ひ、差上げますと云ふて返すのが至當である。

◇箸の取り方 右の手にて箸を取り、軽く左手を添へて持直し、夫れより物を食し始める箸を休める時は、箸の元を膳の縁に懸けおき、食ひ終つたならば、縁へかけず膳の中に入れて置くのである。

◇茶の飲み方 茶碗を右の手に取り左手に添へ、残らぬ様飲み終りて茶臺の上に乗せて置く。半ば飲みたるまゝ下に置き、又飲み終つてから茶碗を茶托に伏せるなどは禮儀ではない。

◇酒の受け方 酌人が我前に來たならば下座の者に會釋して右の手にて盃を取り左の手を添へ酒を受け、飲み終つたなら盃を吸物の傍におく。

◇吸物の吸ひ方 右の手に箸を取り、左の手に椀を持ち、右の手を添

へ先づ汁を吸ひ次に實を食し、又汁を吸ひ元の所に置くのである。

◇飯の食ひ方 箸を取るに先だちて右手にて飯碗の蓋を取り、次に汁碗の蓋を取り、次に右手に箸を持ち乍ら飯碗を抑へ、左の拇指を少し碗の縁にかけ他の四指にて絲底の邊を持ち、二箸ばかり食べて下に置き、次に汁碗を取り、汁を吸ひて下に置き、又前の如くに飯を食し、次に汁の實を食し、又下に置きそれから他の菜を食ふこととなる。

◇蓋を取る順序 膳立ての模様で、一樣には定めかねるが、飯、汁、壺、二の汁、平、三の汁と云ふのが本式である。凡て右側にあるものは蓋を右手にて取り、左手を添へて置き、左側にあるものは左手を以て右手を添へて下に置くのが一般の法である。

座談法の秘訣

一 寧ろ傾聴者たれ

「上手な談話者とは上手の聴者を云ふ」とは況く各國の格言に見る所である則ち他人の言を傾聴するの義務は座談上の根本律である人凡て極端な談話好きの七女と話をするときには自分は常に聴者の地位に立つてたゞ時々心利きたる挨拶をする事吾人は屢々言の過多なりしを悔ゆることあれども言の不足なりしを悔ゆることは稀なり」といつた古言があります恐らく何人でも毎日一回回想すべき名言であると思ひます

談話に當りまして沈黙傾聴する事は決して左右を顧みる事なく不注意
放心の態を誠めねばなりません。

二 他人の秘密を發表せぬ事

對話をして愉快ならしむる最先要件は双方の間に隔意なきことです
それには先づ相手に自分の話を信用せしむる必要があります相手方は
胸臆を開いて話こまん、世間の多數者は談話漸く熟すると人より秘
密にして他言をする事を止められし事を語りて唯其の相手に堅く他言
せざる可きを頼みつゝ能く秘密を保てると思ふ人がありますがそれは
大なる過です、常に座談に付いて念頭に置くべき座談の成功の秘訣は

座談に際して何を云ふべきよりも何を避くべきかを知ることです即
ち少しも人の感情を害するが如き言を避けてよく人と自分との間に一
つの好意と同情とを通ずることを心掛けねばなりません又好んで他人
の人物若くはその行爲事業を噂することは堅く誠しめねばなりません
他人の噂をせぬは人生及び社會の紛騷を解決するに於て大に便利で
す。

三 出來得る限り他人を不快にする様

な言語を避ける事

世に人を冷罵し鋭利なる罵答の流行するは非常に嘆かばしい事であ

ります世間の多數者は機智なる冷罵の利益のみ見てその害の大なるを忘れるからであります幾多の争論不和は大抵之に原因して起るのであります社會の下層なるに従つて益機敏苛辣の言語を好む傾向の見ゆるは大に誠むべき事であります下層社會の會話には實に野卑なる冷罵や反駁や喧々罵るの外何物もない様であります讀者又深く此の點を反省せなければなりません次ぎに如何なる場合にも押れ過ぎたる無遠慮の言葉を避けねばなりません。

四 非難攻撃に就て

談話に巧みにならんとして漫りに他人を非難する習癖を避けねばな

りません交際社會の座談は往々にしてその大部分は互ひに不在者の惡口若くは聞くに堪ざる不在者の攻撃より成るが如きは大に悲むべき事ですされば座談の際は決して他人の非難攻撃の言語を口にせぬ事世間の何人に對しても惡聲を放たねば世人は必ず其の人の優雅の品性を認めて尊敬しその人の言語は又何等の惡意害心なき故何人の話よりも先づその人に耳を傾ける様になり従つて交際社會の談話術の成功者となり得ます。

五 虚榮心に就て

座談中出來得るだけ自己に關することは話しをせぬ方がよい常に自

慢をすると人に云はれぬ様堅く警戒せなければなりません常に自分の自慢を云ふ人ほど其の折角の長所を傷くるものであります何んな多智多才教育勇氣若くは美貌ある人も若し幾分でもその誇るの色あらば美點も美點と見えすして終ります。

又自分の富裕な事富裕に慣れたる事若くは富人と親交あることを誇示する如き座談はなすべき事ではありません已れの専門と見られる如き事物に就て余り屢々語らぬ事人若し政治宗教法律其の他何事に關せず著しく得意の事あらば自分より云ひ出さぬとも座客の何人から必ずそれを云ひ出づるものなり若し自分が壯健美貌熟達せる技藝等有するも縦令間接にても此等の事に就て余り論及する事を避けねばなりません

ん好んで自己身上の秘密を語り若くは自己或は朋友に關係ある事件の重大なる秘密を得る如き虚榮心を斥けねばなりません。相手の誰れ彼れに差別なく自己の災禍不幸を物語り痴愚を演ず如きは尤も注意すべき事です一時は爲めに深厚なる同情を得ることもあるも結局何の効果もありません座談の際は避け得る限り自己の長所若くは短所を説かぬ事強き斷言の語を避く事而して自ら誇る風は至つて見苦しきものでために相手の感情を害する丈であります。

六 物語奇聞及び地口に就て

巧みに物語を語り得るは善くありますしかし逸話地口引用句等を餘

り屢々語るは悪し「例の御株か」と人より目笑せらるゝが如き事なき
 様注意しなさい何人も一二の得意の物語を持ち居るは大に宜い事です
 が餘り何度も同じ事を繰返へすは宜しからず又同じ物語を其人に萬遍
 なく繰返へす人の如きは多少惠者に見えます概して坐談は自分が新奇
 に覺ゆるか若くは少なくとも聽者に耳新らしと信するものの外は話し
 ては悪し又所を得せしめねばなりません唐突にして場合に適せざる物
 語は甚だ愚かに聞ゆる物です又座談は簡潔明快なる語を用ひます巧妙
 なる言語を用ふるに腐心する要ありません可笑しき事實を語るも自ら
 笑ふは悪したためにその可笑しさを半減する故なり他人の聲色を真似て
 語つてはなりません多くは野卑に聞えます昔物語を新事實に作り變へ

て語るが如きことをしてはなりませんこれは一の詐欺行爲にして發見
 せられたるときは大に人に輕蔑を受けます物語をなすに俳優的身振り
 をするは宜くありませんすべて不清潔の話便所浴室の話暴飲暴食その
 他肉慾上の放恣に關する話等は皆相手の快感を起す所以でありませ
 んから決して話柄にのぼしてはなりません。

七 座談上質問に就て

相手が答ふることを欲せざる質問を發せない様注意なさいしかし適
 當な質問を發することは往々にして眞の好意と慰懃とを表する所以な
 ることがあります即ち人は屢々自分の意見若くは智識をば他人に向つ

て語らんことを欲し居る否な寧ろ渴望して居る時が多いのであります。若し此の場合適當なる質問者なくば自分の意見若くは智識を他人に發表する事ができません故何人も巧みに質問を發する術を學ぶは必要なることです而して大抵の場合に於て質問を發する前には多少の前置きと輕き辯解の辭をなすの必要があります。

八 座談中の論議に就て

會合の席上若くは第三者の面前にては激しき議論を避るが宜し強ひて自分の論の正しきを主張するは即ち相手の謬れるを明かにする所以にて座談上最も惡し挑まれたる議論を避へて其の相手となるよりも巧

みにそれを外づす技術に於て眞の手腕のあるを見らるる様心掛けねばなりません。

九 沈黙の人の矯正に就て

世間には他人に對して無禮に當るほど沈黙なる人があります。濫面無愛嬌の青年等は往々斯る極度の沈黙を敢てしつゝ而かも自ら威儀ある謹慎の風なりと思つて居るしかし是れほど甚だしき謬想はありません相手に獨り談話の重荷を負はしむることは交際法の無視した無作法極まる行爲で假にも談話法を心掛くる人にはその心も舉動も少しも寛し難き行爲でありますその智力より云へば十分なる教育あるものすら往

々に遠慮にすぎ赤面に苦しめらるること殆んど病的なる程の人がありま
すかゝる人は常に二三の親友と共に談話術の實習をなすことはその匡
正に大効果があります自分が未見の人々の席に出づるを怖れる時はこ
れ唯個々として自分が會談する人の様に想到する事又自分も會衆と同
等の知識ある事を自信し又容姿に於てもさして見劣り無いと思ひ平然
たる確信にて話をする事。

十 用語の正確に就て

正確なる言談を用ゆることは座談上最も肝要なる事である常に注意
して國語の文法を練習する事されど文法に合ても餘り耳遠き語又は誇

大の語は避くる事相手の教育の程度年齢の相違貧富等考へて先方はわ
かり易き用語を用ふる事右の十項を日常心掛けて人と座談をする時は
右の事を固く履行せば社交會の優者となります。

相手方の心理觀破法

以上は社交と座談の大體を述べましたが終に社交と座談に就いて最
も必要なるは相手方の心理を觀破することなり以下人心觀破術を述べ
よう。

人間三つの型

一、運動型 この型に属する人は顔が長く、頬骨が高く、骨が太く、身体が一體に角ばつてゐる。頸は長い方で、肩幅廣く、胸の大きさも肉づきも普通である。丈は高く目だつ方であるが、スラリとした方ではない。手足が長く、先が細くなつてゐる。全身の筋肉はよく發達して一體に目だつ方である。全身の器官がすべてガツシリと出來てゐるからして、體力も活氣も十分で、仕事もよく出来る。精神の特色をいへば、自信が堅く、志操堅固で勉強家である。またこの型の人は細かなことにわづらはれることが嫌ひで、待たされたりグズグズしたりすると、我慢が出來ない人である。かういふ人に對しては、十分に氣をつけて、機敏に談話せねばなりません。

二、生活型 其次ぎは生活型といふのであつて、これは胃腸などの活器官即ち榮養器官が發達してゐる人である。顔は一體に角がなくて丸味を帯び、強味はあるが運動型の人のやうに。著しくはない。身體は幅も廣く厚みもあつて、一體に丸い傾向をもつてゐる。頸は短い方で肩は廣くて丸い。胸も十分に出て居り、腹部もよく發達してゐる。手も足も先きに行くほど細くなる傾向をもつてゐる。顔の色つやは極めてよろしく、顔つきは愉快である。この種の人は衝動的というて何か思ひつくとすぐにそれを實行するやうな傾きがあり、熱情的で愉快で戶外を好み運動を喜ぶけれども、往々心もちが變化し易い。かういふ人は快活を好むからして、無愛想な人を最も嫌ふ。故にこの種の體格

の人に出席つたならば、なるべく愉快に快活に應接すべきである。併し氣が變り易いから、用心しないと外に逃げられる恐れがある。

三、精神型　これは腦を始めその他神経系統が最もよく働くとところからして名づけたのである。頭は身體に比べて見ると、概して大きい。顔は卵形で、前額が高く且つ廣い。凡ての道具立てがきやしやに細かく出来てゐる。頸は大抵細く、胸は可なり發達している。眼は輝いて表情に富み、一體が優美に見える。かういふ高格をもつた人は考へが深く且つ速い感情も發達して居り、趣味も高尚で、非常に美を好む念に篤い。知力も發達して居つて考へが明瞭である。かくの如くすべて神経系統が發達してゐる結果、動もすると神経質になり、激し易く氣が

變り易い。

以上の如く大體三つの型に分けることが出来るが、これもやはり氣質の分け方と同じく純粹に精神型の人や純粹に運動型の人ばかりがゐるのでなく、幾らかづつ混つてゐるのである。例へば大體は運動型であるが少しく精神型の點があるといふやうになつてゐるのであるから人はその主たるものを見極めて、その人は専ら如何なる種類の人に屬するか、大體の見當をつけることに熟練しなければならぬ。

尙アメリカあたりの座談術の本を見ると人相や骨相に關してもつと細かい説明がついてゐる。例へば鼻の孔の大きいのは勇氣に富むとか小さいのは臆病であるとか、狭くて長いのは活動家であるとか、その

他随分と細かい説明が加へられてゐる。中には中ることもあるであらうが、あまり細かくいひ過ぎると、大道の易者と同然になつて了ふおそれがある。併しそれ等の説明を讀んでゐると、面白い事は中々面白い。若しそれが文字通りに適中するものであるならば、大いに便利であらうけれども、さうは行かない。今一つ例を擧げて見ると、額の皺についてかういふことが書いてある。その皺が平行で現則正しいのは賢くて正しい人である。皺が斜によつて、それが平行に見えるものは疑ひ深い人である額の上部に皺が澤山あつて、下の方に皺のない人は少し足らない人である、といふやうなことが澤山書いてある。無論大體人の顔を見て、賢さうだとか、少し足らないやうな顔をしてゐると

かいふことは云へるには言へるけれども、それも時としては當らないことがある。諸君試みに錢湯に行つて、裸體の人の顔つきを見て、その人の身分職業を考へておき、さて湯から上つて、着物をきてからの様子と比べて見て、中つたか中らぬかを試験して見給へ。大體當るけれども、時としては大笑ひをするやうな誤りをするところがある。これはどうしても月給にして百圓以上は取る人に相違ないと思つた人が層屋であつたり、これは精々五十錢位の日給取りだと思つたのが學校の先生であつたりすることがあるであらう。何だか泥棒のやうな顔つきをしてゐる人が虫も殺さぬ善い人であつたり、女のやうなやさしい顔をしてゐる人が盜賊をしたりするやうな例外が澤山あるのであるから

中々細かいことを言つたとして中るものでない。近世の學問からいつても、人相とか骨相とかいふことは、そのまゝ信ずることは出来ないといふことになつてゐる。まして大道の人相見がいふやうに、何處に黒子がある人は幾つになつてから病氣する筈で、その時助ければ幾つまでは生きるといふやうな馬鹿げたことが分る筈のものではない。

併し人の顔つきは心の様子によつて變つて行くものであるから、人の顔色を見て始終やり方を變へて行くといふことは大切なことである。それには何よりも經驗と氣轉どが必要である。この邊のことは規則書見たやうに個條書きにすることは出来ない。

人間の通性

以上は人間の性質が一人々々違ふといふ方面から見ての話であるが人の性質は十人十色とはいひ條、人間全體に通じた性質といふものはなければならぬ。これは何にてもあることで、猫でも犬でも十疋よれば十疋だけ銘々に違つた性質を具へてゐる。併し猫として猫全體に通じた性質は、皆同じにもつてゐる。犬としてもさうである。この點から考へて人間全體に通じた性質を考へて見なければならぬ。

一、精神と神経系統 一體人間の精神といふものは身體とは關係のないフワ／＼した人魂のやうなものであるとは、昔から人の考へてゐた

ことであるらしい。併し今日においては、精神は決してさういふ性質のものではないといふことが明かになつた。昔は火の玉のフワ／＼して飛んで行くのを見て、人の魂即ち『ひとだまだと信じてゐたやうであるが、今日の學問からいふとそれは誤りである。殊に人の心は人間の身體殊に神経系統と密接な関係をもつてゐる。例へばコカインといふ薬品を神経のある所に注射すると、その神経がしびれて痛いといふ感じが無くなる。又頭に怪我をして中の脳味噌に傷がつくと、覺えが悪くなつたり、字を見ても譯が分らなくなつたり、色々心働きの故障が起つて来る。その他精神と肉體との關係の密接であるといふ證據は澤山擧げることか出来る。そこで苟も人の心について研究しよ

うとするものは、この神経系統について相當の知識をもつてゐなければならぬのである。

然らばこの神経系統とは如何なるものであるか。頭の中にある脳髓と脊骨の中にある脊髓とが幹になつて身體中に枝を出してゐるもので其の組立ては極めて複雑なものであるからして、其れを説明する事は中々困難であるが、其の役目の方は割合に簡単に説明することが出来る。即ち神経系統なるものは要するに外部から刺激を受けて、更に其れを外部に運動として現すものである。換言すれば人間は一種の神経器械であつて、外界における事物や出來事に對してそれを感ずる性質をもつてゐると同時に、一方においてはこの印象に對して色々な運動

を行ふ性質をもつてゐる。この運動が即ちその印象に對する反應であり行動である。感覺と運動はこの二語でもつて人性の全體を言ひ盡すことが出来る。而してこの感覺の印象が音とか光とかいふやうに極めて簡単なものであつたときは、それを稱して刺戟といひ、それがもつと複雑なものになつた時はこれを訴求」といふ。また一方反應が極めて簡單で、ただ音に對して耳を聳てたり、光に對して眼を閉ぢるといふやうなものに過ぎない場合には、それを名づけて運動といひ、もつと複雑になつて色々の運動が含まれてゐるやうな場合には、これを應答と稱するのである。

二訴求と應答 故に心の働きは、すべてこれを訴求と應答との二要素

に分解して考へることが出来る。信號手が赤い旗を出す時、運轉手はそれを見て車を止める。ただ赤い色が見えたといふだけでは、單に感覺刺戟たるに過ぎないが、其の意味は危険があるから車の進行を停止せよといふ複雑な事柄であるからして、これは一種の訴求である。今この訴求に對して運轉手が制動機を動かして車を止めたとすれば、其の運動は即ち應答である。すべて相互の禮儀でも戦争でもまた工場の仕事でも、すべてこの訴求と應答とから成り立つてゐると見ることが出来る。

要するに人間は絶えず訴求を受けては應答し、訴求と應答と常に繰返してゐるものである。

人間の行ふ應答の種類

そこで次に起る問題は訴求と應答との間に如何なる作用が行はれて
あるか。刺戟に對して反感するに當り、神経系統には如何なる過程が
行はれてゐるか。それについては少しく神経要素のことを論じて、そ
れが相集まつて複雑なる神経系統を形成してゐることを明かにする必
要がある。

刺戟に對して運動を行ふといふ働きの最も簡單なる場合を考へて見
ると、ただ二つの神経細胞だけで活動する場合を考へることが出來
る。この細胞といふのは極めて小さなもので、大體は不規則な形をし

てゐるものであつてこれから二條の枝を出してゐる。この細胞と枝と
を總稱して神経原と名づける。此神経細胞の大部分は腦と脊髄との中
にあつて其數無慮百億以上と數へられてゐるが、その役目の相違から
して神経細胞を二種に區別し、感覺細胞と運動細胞とに分ける事が出
来る。感覺細胞は一方の枝を身體の表面に送つて、それが眼とか耳と
か指の尖とかいふ感覺器官に來てゐる。今一つの枝は短かくて、運動
細胞の方に連なつてゐる。(運動細胞は腦又は脊髄の中にあつて、感
覺細胞とあまり距つて居らぬ)。而して感覺細胞の短い枝は運動細胞
の短い突起と相會して接觸してゐる。この木の小枝の入り込んでゐる
やうなところを名づけて接觸部と稱する。この運動細胞からは更に今

一つの枝が出てゐて遙に筋肉のところに達してゐる。

以上の如き配置を稱して、學者は「感覺運動の輪」と稱してゐる。それは神経の衝動が感覺の方からはひつて来て、筋肉の運動に現れて行く有様が、丁度呼鈴などの電流が電線で作られた輪道を流れるのによく似てゐるからである。外からの刺戟が皮膚その他の器管に來るとそこに神経のエネルギーを起し、それが感覺細胞を経て中樞に行き、運動細胞を過ぎて筋肉に來る。筋肉には他の細胞からもエネルギーが送られて筋肉の運動を起す。といふ風になつてゐるのである。

さてこの感覺運動の輪を神経衝動の通過して行く有様を考へて見ると、それに種々の場合を區別することが出来る。それは座談心理の研

究上人間の如何なるものなるかを知るに極めて大切なことであるから左に述べよう。

一、反射運動 諸君は猫の眼の瞳を見たことがあるか。試みに手で猫の眼を蔽うておいて急に放すと、瞳は殆んどまん丸になつてゐるが、すぐに細長くなつてしまふ。これは光の分量を加減する仕掛けなのであつて、明るい時には細くし、暗い時には丸くする。光は即ち刺戟であつて、瞳孔の大きさが變るのは即ち此刺戟に對する反應である。これは人間にもあることで、死ぬ前にはこの反應がなくなるものである。而してこの場合は刺戟と反應との間には何も挟まつてゐない。即ち外部から感覺神経の末端に刺戟が加はると、他に何の媒介も

經ないですぐに運動細胞に刺戟が送られて運動を起す。尙他の例を舉げると、何か塵でも目にはひらうとすると、すぐに瞬きをしてそれを妨げることは諸君も知つてゐるであらう。この場合に、塵が来た時、目をふさいでやらうか、などと考へてゐては間に合はぬこと無論である。故にこの種の運動は刺戟から生じた勢力によつて、機械的に直接に生ずるやうに出来てゐるものであるから、少しも精神の働きを伴なつてゐない。かういふのを名づけて反射運動といふ。この種の運動は神経活動の中でも最も低級のものであつて、座談術とは直接関係をもつてゐない。併し低級だからといつて不要のものではない。人間にとつてはなくてはならぬものである。

二、本能運動 暗い夜淋しい場所を通つてゐるときに、物かげに怪しげな人の姿が見ると、何を考へる違もなく忽ちゾツとして肌粟粒を出かしたり、ステツキを握りしめたりなどする。この種の運動も反射運動よりは複雑であるが、生れつき人間のもつてゐるもちまへである點、即ち生れてから習つたものではないといふ點は反射運動と同じことである。その他子供が可愛いとか、おしやれがしたいとか、人に負けまいとか、金が欲しいとかいふやうな慾は、皆人の生れつきである。故に社交でも座談でも、この點を甘く考へて利用すると、別に人に考へさせずに、すぐ刺戟に應じて運動させることが出来る。かくの如き運動を心理學では本能運動といつてゐる。化粧品の如きは大

抵人のしやれる本能を促せばよいのであるし、別に理窟から説いて行く必要はないのである。その他人間には狩獵の本能がある。魚や鳥をとる事、これは人間が生れつき具へてゐる性質で、人によつては三度の御飯よりも釣が好きだといふほど烈しい人と、さうでもない人とあるけれども、誰しも多少は狩獵を好む傾向をもつてゐる。故に空氣銃などを賣るには雀などがドシ／＼とれて面白いことを語つて聞かせるとすぐにその手に乗つて買つて了ふのである。即ちその座談が人間の生れつきの本能に關係がある場合には別にくだ／＼しい理窟をいふよりも、すぐこの本能に切り込んで言つた方が有効なことが多い。

三、習慣運動

諸君は御飯を食べるときに、茶碗は右にもつか左に

もつかを考へてからとり上げるか。恐らくさういふことはあるまい。膳の前に坐ると、左の手は碗に右の手は箸に、自然に動いてゆくであらう。これは生れつきではないが、小さいときから度々同じことを繰返してゐた結果、それが癖になつて殆ど機械的にその運動を行ふやうになつたのである。例へば幼時から甲の石鹼を使ひ慣れてゐると、石鹼といへば必ず其の品を求めすることに極まつて居り、又其れを買ふ店も極まつてしまふのである。別に買ふ度に、何石鹼がよいか、どの店がよいかなどと考へている必要がなくなるのである。座談も久しく其の人と慣れ親密になれば技術なども要らなくなり、ただ先方の來るのを待つてさへすればよいことになるのである。

以上三つの運動即ち反射運動と本能運動と習慣運動とを比較して見ると、一と二とは遺傳的に生れ乍ら有する所の運動であるが、三は生れつきではなくして、生れてから同じことを繰返し々々してゐる中に出来た運動である。併し三つとも刺戟があると別に細かいことを考へずに直ぐ運動を行ふ點は同じことである。然るに、

四、意志運動 になると大に其の趣きが違つて来る。意志運動といふのは何か刺戟のあつたとき、其の刺戟に對してすぐに運動を行はないで、如何なる運動を行つたならば適當であるかをよく考へてから行ふところの運動である。即ち愈運動を行ふまでに、比較して見たり選擇して見たりして、然る後に最後の行ひをするのがこの意志運動であ

る。いま日用品についていへば、例へば齒磨がほしい、何といふ齒磨を買はうかといふ問題が起る。この時新聞や雑誌を取り出してライオン齒磨の廣告と仁丹齒磨の廣告とを較べて見て、どつちがよいかを研究して見る或は兩方を買つて實際に使ひ比べて見て、この方は高いけれども品がいゝからこの方にしようといふ風に、比較して然る後に選擇したりする。然らば何を標準として最後の決定をするかといへば、それは其の人の性質及び商品の性質に依るが要するに今迄自分の研究した結果に依つて極めるのである。或は學問の知識或は興味によつて極め、或は經濟上から極めるので、其の標準とするところは十人十色人々によつて違ひはあるが、要するに色々考へた末に決定するので、

これが即ち意志運動の場合である。

かくの如く意志運動の場合には、運動に先つて思慮、比較及び選擇などの作用が行はれるのであるが、これ等の働きはいはゆる高等なる精神作用に屬するもので、生理的にいへば大脳に於ける神經中樞の活動に基づくものである。前の一、二、三の場合においては感覺衝動が脊髄を経て直ちに運動衝動となつて現はれるのであるが、意志運動の場合に於ては、脊髄に沿うて高等なる腦中樞に進んで意志現象を起し記憶とか聯想とか判断とかの如き活動を生じてくる。かくの如くして過去の經驗や知識や興味や目的や理想などに照らし合はせて見た結果目下の訴求に對して如何なる應答をなすべきかを定めた後に、始めて

(其の時すぐに、又た將來に於て)實際の運動が起つてくるのである。故に意志運動の場合に於ては、前の如く運動の仕方も一定してゐなければ、運動の起る時期も一定してゐないのである。即ち一定の訴求に對して如何なる應答をするか極まつてゐないのみでなく、假令決心はしても、その決心が何時行爲となつて現れるかは明かでないのである。

人を動かす方法

さて以上四通りの運動の仕方を比べて見ると、初めの反射運動本能運動、習慣運動の三つと終りの意志運動とは、全く其の性質を異にし

てゐることに注意しなければならぬ。即ち前者は刺戟と反應との關係が直接であるが、後者に於いては其の關係が間接である。尙この相違の點を明かにするために、選舉運動のやり方を例にして考へて見よう。選舉運動のやり方にも色々ある。或人は頻りに貧乏といふことを看板にして運動する。政見とか何とかいふ事はそつち除けにして、何でも貧乏だから助けると思つて投票してくれろと頼む。有権者の方では「可愛さうにあの貧乏人が落選でもしたら」といふ憐み氣の毒さが先きに立つて投票してやる。人の苦痛を見て可愛さうに思つて助けてやることは、人間の持つて生れた一つの本能であるから、この種の選舉運動は本能を目標とした運動の仕方である。又は巧みに人を感激せ

しめて、運動に成功するものもある。例へば貧乏だから助けて呉れなごいふようなことは云はないが、演壇に立つて時世を慨する大演説やるを。理窟は合はんでもよい、少しばかり理窟らしい事を並べた後で、かくの如くして國家の將來を如何にせんとするか！と云つて卓を叩いたり、國家のために實に憂慮に堪へないのであるといつてハンケチで眼を拭つたりなごすると、聴衆は譯もなく同感してしまふ。決して理窟の上で成るほごと思つたのでも何でもない。其證據には、其の人が反對派の演説會に行つても、同じやうに上手な演説を聞くと、全く反對の説であるにも拘らず、同じくなるほごと感心して了ふからである。理窟には二通りないから、違つたことを同時に信することは出

来ないが、感情に訴へて来ると、尤で立場の違つた兩方の話をいづれも尤もと感心してしまふことが多い。芝居などにもよくさういふところがあつた。例へば甲の話を聞いて尤もと感心、乙の話を聞いても成るほごと思ひ、ごうしたらよいかとマゴ／＼してゐる男などがよく喜劇に出て来る。かういふ選舉運動は一寸考へると、演説會などでする運動であるから、中々堂々たるものゝやうに思へるけれども、心理學上から見ると、理窟から攻めてゆくやり方でなくて、感情に訴へる方であるから、寧ろ卑性なやり方であるといはなければならぬ。即ち其の性質に於いては、貧乏を看板にして憐みを乞ふのと同じである。其れから甚だしいのになると、買収をする。別にその人を憐いとも何と

も思ひてゐないが、運動員が座布團の下に金をおいて行つたら、氣の毒だから投票してやらうといふやうなものもある。これは利慾の本能に支配された違反行動である。

次に習慣的に投票する場合もある。私はもう多年誰かに投票するごとに極めてゐるから如何なる人が運動に來ても私は誰かに投票する。いつの選挙期にも誰に投票しようかなどと考へたことはないといふ人がある。これ等は投票が習慣的になつた場合である。

それから次は、意志運動に訴へる選挙運動方法である。これは最も合理的な正々堂々たる運動であつて、金錢にも依らず、それから貧乏なのも標榜せず、慷慨悲憤の演説も使はず、たゞ自分の政治上の理想

なり意見なりを、文章なり或は手紙なり或は演説なりによつて之を選
 挙民に通じ、そうして選挙民の思慮判断に訴へて、成るほどの人の
 政治意見が最も理に適つてゐると思ふから、あの人に投票しよう、と
 いふやうなことで、他の候補者の意見と比較した上で投票したとすれ
 ば、それは即ち意志運動によつて投票したる場合である。

短道法と長道法 かういふ風に説明して來ると、人を動かす方法に
 二た通りの區別の存する事が分かる。一つは本能に訴へる方法で、訴
 求より應答に至る道は極く短い。故に本能に訴へる方法を名づけて短
 道法といふ。之に反して意志運動に訴へる方は、其の理性に訴へ思慮
 判断に訴へて最後の決定をするのであるから、途中が中々複雑で且つ

道が長い。故にこの方を長道法と名づける。そこでこの長道法と短道
 法とを比べて見ると、前に述べた選挙運動の場合でもさうであるが、
 理窟で以て人を成程と感心させることは非常に骨の折れることであ
 る。之に反して貧乏を看板にして、泣倒したり拜み倒したり、或は金
 によつて人を動かすとか、或は理窟にもないことを如何にも理窟のあ
 るやうに雄辯滔々と辯じ立て、人を煙に捲くといふやり方は非常に樂
 である。色々な方法を以て相手方の運動を激發しようとするには、
 まづさういふ短い道を通つて行くやり方は非常に成功し易い方法で
 ある。

挨拶の仕方

二四四

何事をなすにも禮儀作法を心得てゐる人であつたならば、數多の人の前に出ても少しも億することがないのである。禮法のやうなことは常識を以て判斷し實行することができるとしても禮法といふ要則を知つてゐるならば、忌憚なくすらくと行ふことが出来るのである。

我々は充分に心得てゐないからこそ、何事をするにも面白くない、できばえのないものを作り出すのである。然しかうばかりも云へないが、大概は心得てゐて、要するに知つていて、勇氣を以てこれを行ふ

ときは、どんな六ヶ敷いことでも遣り徹すことができ、立派なものを作り上げることのできるといふことは多言を要しなくても知れ切つて居る事である。乃ち普通の禮法の如き誰でも知らなければならぬことであり、又至つて行ひ易いものであるから、その方法を習ひ知り心得おくの必要があるのであるから、その方法を習ひ知り、心得おく必要があるのである。

とにかく禮法と云ふのは、日常我々が行ふ首を曲げ暑さ寒さの辭を圓滑にいふだけである。尤もそれはいと易いことゝいつても方法があるから、その方法に順つて行ひさへすればよいのである勿論禮法といつた所で、唯だ首を曲げるばかりは禮法ではない、意を贈るを以て禮

二四五

目下に對する時の言葉

- 一、ごめんなさい
- 一、願ひます
- 一、お頼み申す
- 一、伺ひ申す
- 一、一寸伺ふ
- 一、ごめん
- 一、お願ひ致します
- 一、頼む
- 一、伺ひます

人に招待された時の挨拶

目上に對する時

- 一、御招きに預り早速罷越しました。

- 一、御招待により早速參上仕りました。
 - 一、早速御邪魔仕りました。
 - 一、御丁寧に御招き下さりまして有難うございます。
 - 一、御遠慮申上ず御邪魔仕りました。
 - 一、御心に従ひ早速推參仕りました。
 - 一、御呼び寄せに應じ御伺ひ仕りました。
 - 一、御招待有難き幸に存じます。
- 目下に對する時
- 一、御招きにより早速まゐりました。
 - 一、御招待により早速く御伺ひ致しました。

- 一、直ぐまゐつたのです。
- 一、御丁寧に御招き下さいまして大變ですわ。
- 一、遠慮せずにまゐつた。
- 一、お前のいふ通り馳走頂きにまゐつたわ。
- 一、呼ばれてきました。
- 一、わざわざの御招なし有難うござんす。

朝夕の挨拶

朝夕の定つた挨拶

朝夕の挨拶といふことは、朝夕に於て、對手に向つて禮をつくし接

接のすることである。乃ちこれは一家の中に於ても盡すべき言葉である。まして他人に向つては丁寧に述べ、他人に悪感の抱かしめざるやうにするものである。こんなことはどうでもいふといへば、それでいふかも知れんが、それでは社會は暗であり、交際といふことがなくなる譯である。

この朝夕の挨拶に四通りある。即ち春、夏、秋、冬に依つて言葉をかへなければなりません。然しながら此の如く四季に依つて變るといつてもそのうちに一定して不變なものがある。それは

- 一、お早う………
- 二、日はもうくれました………

と、この二言葉であつて、その語尾使用によつて上輩にする言葉、目

下に對する言葉と、その敬語がいろ／＼となるのである。即ち

一、お早うございます (目上に對して)

お早う (同輩に對して)

お早いですね (目下に對して)

お早いことね (召使などに使ふ)

二、日はもうくれてございます (目上に對して)

日がくれました (同輩に對して)

日がくれたよ (目下に對して)

日がくれた (同輩にも亦目下に對して又召使などに使ふ)

日ぐれですよ (目下に對して)

日がくれてよ (女同輩の使ふ言葉)

その他の言葉は、時と場合によつていろ／＼に使はなければならぬ。それで四季に依つて使ふ言葉が違ふといつたのである。そしてその四季の中に……例へば春にしても、初春、盛春、暮春の三季に別ちて使はなければ、時節に對する言葉が態をなしてゐない、徹底のしない言葉であるが故に、禮法に逆つてゐること勿論である。人格ある者とはいはれないのである。

即ち初春の時「大層暖かになりました」といふべきときに「大層暑くなりました」は、誰も本氣に聞かないとしても、これを何遍も眞面

目で、繰り返すならば「あの人はどうも變だ」と、その人を認めないやうになるものである。故に前後せざるやうにせなければならぬ。勿論こんな事位は、よく／＼の馬鹿でもなければ、云ひそこねるといふこともなからうが、欺、婚、弔、慰の時の言葉などには任々いふべき言葉の、つまりその場合に應じた法に叶つた言葉の使ひやうの知れぬことのあるものである。

かうした六ヶ敷い言葉の使ひやうを説く、道しるべとして、この朝夕の挨拶より説くのである。こゝに於て朝夕の使ふ、定まつた挨拶も説いたから、此度は四季に對して遣ふ言葉を述べらる。

春三季の朝夕の挨拶

上輩に對しての挨拶

初春

春とはいひながら未だ寒うございます。餘寒甚だしうございます。如何でございませぬ朝夕は未だ寒いぢやございませぬか。餘程暖かになつてございませぬ。大層暖かでございますか。ほんに暖かうございます。仰せの如く長閑でございます。餘寒却つて厳しうございます。未だ寒うございます。花近うございます。日増しに暖春となつてゐます。

盛●春●

春暖になり申しました。清和の候と相成りました。花盛りとなつて
ございます。大層暖に相成りました。

暮●春●

夏近うございます。ひどく暖でございます。春も更けてございま
す。五月でございませうもの。夏の氣持でございませう。風暖かうござ
います。

同●輩●以●下●に●對●し●て●の●挨●拶●

初●春●

春になつたけれども未だ寒いのです。餘寒ひどいのですね。さうで

盛●春●

す朝夕は未だ寒いぢやありませんか。餘程暖かになりました。大層
暖かになつたぢやありませんか。ほんに暖かです。勿論長閑です。
未だ寒いな、花が咲きませう、日に増し暖で。

春暖となつたね。清和の候となつたね。花の盛りです。大層暖にな
つた。

暮●春●

夏も近くなつた。ひどく暖になつた。春も更けた。五月ですもの。
夏の氣分となつたわ。風暖です。

夏三季の朝夕の挨拶

上輩に對しての挨拶
初夏

お暑く相成りました。薄暑うございます。お暑さ漸く暮つてまゐりました。夏の初めでございますから。暑氣俄に増してまゐりました。

盛夏

酷だ暑うございます。暑さ殿しうござります。甚だ暑うござります。昨今の暑さは最もひどうござります。晩かゝやうに暑うござります。

いままう。

残暑

殘熱甚だひどう暑ございます。殘暑全く凌ぎ難うございます。朝夕は涼しくはなりましたけれども日中の暑さ甚だひどうございます。暑蒸すやうでございます。同輩以下に對しての挨拶

初夏

暑くなりました。薄暑くなりました。暑さ漸く暮つてきました。夏の初めですもの。暑氣俄に増してきたね。

盛夏

ひどく暑いですね。厳しい暑さですわ。甚だ暑い。昨今の暑さつた
らひどいわね。焼かるゝやうに暑いわね。

残暑

残熱甚だひどいですね。残暑全く凌ぎ難い。朝夕は涼しくなつたけ
れども日中の暑さはひどい残暑蒸すやうに暑くるしい。

秋三季の朝夕の挨拶

上輩に對しての挨拶

初秋

秋と相成りました。朝夕涼しうございます。日増しに涼さ増してご

ございます。秋風涼しうございます。朝夕は肌寒うございます。秋の
氣が増してございます。

中秋

大層涼しうございます。涼しうございます。夜長と相成り申しまし
た。秋深くなつてございます。秋は物淋しうございます。秋冷相増
し申しました。

暮秋

朝夕は裕にて凌ぎ難うございます。冬近うございます。暮秋の候で
ございますもの。小春日和でございます。

同輩以下に對しての挨拶

初●秋●

秋となつたのです。朝夕涼しくなつた。日増しに涼さ増してまゐります。秋風ひやくして。朝夕は肌寒くなつた。秋の氣が増してき

仲●秋●

大層涼しくなつた。涼しいわね。夜長となつたわね。秋深くなつてきた。秋は物淋しい。秋の涼しさ日毎に増してきます。

暮●秋●

朝夕は裕では凌げません。冬が近くなつた。暮秋となつては寒くもあり淋しくもありますわね。小春日和の節となりました。今日は静

かな平和な日です。

冬三季の朝夕の挨拶

上●輩●に●對●し●て●の●挨●拶●

初●冬●

寒さに向ふ時となつてございます。日を逐うて寒さは催してござい

中●冬●

寒うございます。寒さいよく甚だしく相成りました。きつい寒氣

います。

歳末

師走となりまして寒氣一層涼しうございます。年内はもう餘日もございませぬ。最早數へ日となりました。歳暮何にかにつけ御忙しうおらせられ。今年も早や名残り少なうございます。

初冬

寒さに向つてきました。日を遂つて寒くなつてきます。追々寒さに向ひまして。寒氣俄に甚だしくなつた。

中冬

寒いね。寒さいよく厳しい。寒氣堪へかねるね。一方ならぬ寒さだ。雪の後は尙更ら寒い。

歳末

師走となつて寒さ一層酷い。年内は日もないことだ。最早數へ日となつた。歳暮の何彼と忙しいでせう。今年も早や少しとなつた。

新年の挨拶

上輩に對して

明けましてお目出たうございます。

新年の御慶びお目出たうございます。

新年は御目出度うございます。

同輩に對しての挨拶

明けましてお目出たう。

新年の御よろこび御目出度う。

新年御目出度う。

面會を求むる時の挨拶

取次に託するの言葉

上輩に對しては

「御主人は在宅でございますか」

この言葉を冒頭に置いて、

何の某でございますが御取次を願ひます。(名刺を差し出して)此者

でございますが御取次をお願い致します。御主人様に御面會仕る者御

取次をお願い致します。奥様に御取次を御願ひ致します。何の某參つ

たと御取次願ひたうございます。御取次御願ひ致します。お神さんに

お取次お願い致します。

同輩の家の取次に對しては

某ですが御取次を願ひます(名刺を差し出して)この者ですが御取

次下さい。御主人に御取次下さい。奥様にお取次下さい。何の某きた

とお取次を願ひます。取次下さい。

面會の挨拶

二六八

御多忙中に面會下され忝けなうございます。御面會を求めまして面目なうございます。御煩はす程のことでもございませんが御面談下さいますして誠に忝なうございます。御不快の由なれども御面會下さいまして誠に恐れ入ります。お接し下さいまして誠に難有うございます。同輩以下に對して

どうもお忙がしい處。面會しなくもいゝことだが。心配かける程の問題でもないが。御不快の處實に恐れ入ります。お逢ひ下さつて恐縮です。

初對面の挨拶

初めて御面會誠に恐入ります。このやうな不躰者誠に恐入ります。不調法者失禮致します。初對面の御辭申上げます。こんな失禮の者御面會恐れ入ります。

紹介されて初對面の挨拶

何某氏の御紹介により御邪魔致しました。某様の御紹介により推參仕りました。某殿の御紹介によりまかりいできました。

面會の挨拶

二六九

先程は失禮致しました。先日は失禮仕りました。過日は御邪魔でございしました。暫時御不沙汰致相濟ませせん。

再三対面挨拶

度々失禮致します。再三の失禮でございします。

急用の場合の挨拶

唐突の御面會甚だ恐れ入ります。至急の用件でございまして大至急の御用件で御邪魔致しました。急用に付御面會を求めたる次第でございします。

應急の場合の挨拶

只今大事件出来たものでございしますから。とんだことが出来たものですから。大變な怪我をいたしましたして御面會を辱ういたしました次第でございします。何々急死につき御面會をかたじけなう致しました。

安否の言葉

この安否の言葉は、急用及び應急の場合には、殆んど使はないけれども、尤もそんな場合には使ふべきものではない。その他の面會の場合には大概使ふのであるが、打續けて訪問したる際は或は使はないこと

もある。爾して又初対面の折は、用件のみ會話して、それを抜きにする。それが往々見受けらるゝのである。

とにかく安否の言葉としては。

上輩に對しての挨拶

愈々御勇健に在らせられ。益々御清福に入らせられ。彌御安泰に在らせられ。倍々御達者に入らせられ。皆々様御揃ひ御機嫌克く入らせられ。皆様には何の御障りもなくいらせられ。爾來益々御多祥に入らせられ。皆々様にはおかはりもあらせられず。御機嫌麗はしく入らせられ。御恙がなく在らせられ。御別條もなく入らせられ。御清勝にゐらせられ。

この言葉の尾には必ず。

お目出たうございます。

とつくのである。そして右の言葉を同輩以下に對しての言葉に直しては

いよ／＼御丈夫で。益々御達者で。愈御無事で。倍々達者で。皆お揃ひで御機嫌よくゐるでせう。皆が何事もなくゐるでせう。その後お變りなく。皆様はかはりなく。無事で何事もなく。御丈夫でゐるだらう。

新築落成の挨拶

上輩に對しては

立派なお家ができあがりまして御祝ひ申上ます。

新築落成の御祝ひ申上ます。

同輩に對しては

立派なお家ができてお祝ひいたします。

新築落成をお祝ひいたします。

開店を祝ふ挨拶

上輩に對しては

御開店御祝ひ申上ます。

同輩に對しては

御開店おめでたう。

結婚を祝ふ挨拶

上輩に對しては

〇〇様の御結婚お目出度うございます。

今日は御縁組みの式を挙げさせらるゝに付き誠にお目出度うござい
ます。

何某様の御結婚式に御招き下さいまして誠に御目出度うございま
す。

同輩に對しては

○○様の御結婚お目出度うござんす。

今日は目出度う。

何々様の御結婚式に招ばれまして有難う。

就職されしを祝ふ挨拶

上輩に對しては

御就職遊ばされましてお目出度うございます。」

御榮轉遊ばされましてお目出度うございます。

同輩に對しては

ご就職お目出度う。

ご榮轉お目出度う。

出産を祝ふ挨拶

上輩に對しては

玉の如き御男子御出産遊され御芽出度うございます。」

女子御安産遊されまして誠にお芽出度うございます。

同輩に對しては

玉のやうなお子さんを舉ましてお芽出度う。

女のお子さん出生まして誠にお芽出度う。

留守見舞の挨拶

上輩に對しては

御尊父様は旅行中にて御淋しうございませう。

旦那様御留守にて御寂びしうございませう。

同輩に對しては

お父様旅行中で淋しいでせう。

旦那様御留守で寂しいだらう。

寒中見舞の挨拶

上輩に對しては

此頃は如何渡らせませする甚だ寒いぢやございませんか。暖しい寒さ

でございます如何御暮しでございます。

同輩に對しては

此頃は甚だ寒いごう暮してをられます。

ひどい寒さですな何んと御暮しです。

火事見舞の挨拶

上輩に對しては

幸にして類焼をのがれ不幸中の幸でございます。

神信心の深い貴殿でございますから、類焼をお脱れなさいましたのでございます。

同輩に對しては

幸に類焼を脱れ不幸中の幸である。

日頃神信心してるから類焼なかつたのだ。

類焼見舞の挨拶

上輩に對しては

近隣よりの貰ひ火にて御焼失は誠に御氣の毒の至りでございます。

類焼の御厄難に罹られたことは返すくも御氣の毒に思ふのでござ

います。

同輩に對しては

近隣の失火で焼けたことはなんともお氣の毒です。

類焼に罹つたことはご同情に堪えません。

土産を贈る時の挨拶

上輩に對しては

奈良の人形とあられ酒差上げたうございます。

〇〇よりの到來物でございますが御すそわけいたします。

同輩に對しては

此は奈良の人形とあられ酒です御風味下さい。
〇〇からの到来物だがおすそ別けいたします。

辞去の挨拶

既に用向も終り、終末の挨拶をもちいたしたならば、手紙文でいふ處の終結の言葉を述べなければならぬ。

- (1) 即ち上輩に對しては
失禮でございます
- お八登しうございました
- お邪魔でございます

御厄介様でございます

- (2) 同輩以下に對しては

失禮です（失禮でしたね）
 騒かせました（騒々しうござんした）
 お邪魔いたしました
 ご厄介様です

- (3) 特別の場合

即ち難な言葉としては
 さよなら

である。この言葉は高貴な人、その他禮式を重んずる場合には、使ふ

この言葉ではない。

其の他の挨拶

前に述べた諸挨拶の外に

一、申込の挨拶

申込理由を先きに述べて申込むのである。要するに同情を求めて
申込むのである。

一、催促の挨拶

権利を以てするのであるが、然し用になつた理由を述べて督促す
るのである。

一、協議の言葉

相談するやうにして、事件を進行せしむるのである。

一、照會の挨拶

理由を述べそして聞き合せるのである。

一、承諾の言葉

情に訴へ、理にうつたいて承諾せしめるのである。

一、辯解の辭

正直に事實を述べていひわけをする、又すち道の立つた理屈を述
べて辯解するのである。

一、勧誘の言葉

對者に忿心を起させて誘ふのである。

二八六

一、注文の語

普通の通の禮義を以て注文するのである。

一、抗議の辭

理屈を以て抗議をするのである。

一、請求の言葉

切なる情を述べ、又入用になつた理由を述べて請求するのである。

一、拒絶の言葉

ことわるにしても言葉優しく、對手の意に強く逆らはぬやうにし

て拒むのである。

一、反駁の言葉

相當の理を以て、或は自分の主義を述ぶるに理を以てするのである。

一、交渉の辭

相當の理屈を以て交渉するのである。

一、忠告の言葉

言葉靜かに情に訴へ、理を述べ、誠心誠意をつくして忠告するのである。

一、依頼の言葉

二八七

情に訴へ、意を盡して依頼するのである。」

一、信用の言葉

飽くまでも信用のできる、言葉をいふのである。」

一、陳謝の辭

下てにで、言葉優しく陳謝するのである。」

一、證明の辭

明かに立證するのである。」

一、保證の辭

儲かに保證する、或は保證できうると男性的にいふのである。」

一、報告の言葉

見たまゝ、或はありのまゝを報告するのである。
此等を細々と述べたにしても、紙数を多くするのみ、別に大なる利
もないから、簡単に要領のみ述べて置くが、要するに、眞面目を以て
挨拶すればよいので、その間に偽といふことのないことを以て社交
上の秘訣とするのである。

終末の挨拶

一、言葉

此の終末の挨拶といふは、手紙文でいふと末文のことであつて、前
述の用向に對して訣別の一禮を述べ、且つは前の旨要點を、一口に述

べる處である。

まづぐ

ご返事申上ます

斯のやうに

お願申上ます

取敢へす

要件のみを申上ます

まア

ご案内申上ます

どにかく

ご注意申上ます

右何々

ご注文申上ます

一、用向の要點を繰り返しては

御見舞を申上ます

ご挨拶申上ます

御考へを御尋ね致します

ご無沙汰を御詫び申上ます

呉れくも何々の件御願ひ申上ます

ご報告申上ます

此れ等の言葉の頭には前に述べた「まづぐ」「このやうに」「取敢へす」「まア」「どにかく」「右何々」などつけて仕ふものである。

一、それから後を期するものであつては

何々日の御面會の日に御譲りいたします。

重ねて御面會の日に御願ひ致します。

一、謝辭をするものにあつては

お忙はしい所を

長座ちやうざいたしまして

御容赦ごようしやを願ひます

御ゆるしおゆるし願ひ致いたします

何半なにぞ御察ごさつし願ひ申まします

一、傳言でんごんを頼むものにあつては

この傳言でんごんを頼む言葉には二通りがある、一つは自分の傳言でんごんを頼むも

の、他人の傳言でんごんを他に傳つたへるものである。

(イ)我が傳言でんごんを頼むものにあつては

ご家内かないに宜敷よろしくお傳つたへ下くだされますやう

ご令兄れいけい様へよろしく

お母上はは、うへさま様へよろしく願ひ申上まします

お父ちちさま様にお傳つたへ下ください

社長しゃちょう殿へ宜敷よろしく御吹聴ごふいせん願ひ申上まします

委員委員諸君へ御挨拶ごあいさつ願ひ申上まします

御兩親ごれうしん様には疾さくと申上まげ下ください

御序ごついでの節せつ御校ごんかう各位かくわいに宜しく御傳ごつたへ下くだされ度たく願ひ申上まします

(ロ)他人たにんの傳言でんごんを傳へるものにあつては

〇〇氏しからも宜しく申上まげくれと申ましました

兩親れうしんからも厚あつく御禮ごんらい申上まげるやうと申聞まをしきかせました

「此の鯛、甚だ少々でございますが、勢の好い魚でございますから、御父上におあげ下さい、實は御口に合ふものと思つて、かれこれ、探したのでございしましたが、別に見當りませんものでございしますから、こんな粗末なものを差しあげます。どうぞ御病人に御あげ下さい。」

「病人の大好物早速く頂きます、有難うございます。」

母堂の病氣見舞の言葉

「御母上様には御持病の胃瘵にて、御惱苦をらるゝさうで、嘔ぞかし御難儀でございませう。昨今はめつきり寒く、その上雲空のことでございしますから、御苦しみ御察しいたします。此頃は如何でございませ、大層御やつれのやうに聞きました、小しも御塞でございませ

ん。これぢや速からず御全快のことゝ思ひます。」

「有難うございます。度々の御見舞忝なうございます。先日はまた御面倒な物を御願ひいたしました、何んども申譯けございません。」

「どういたしましたして、早速〇〇に参り、購めてまゐりました。この湯薬は夜お休みになるとき御服になるとようございます。」

「御厚意有難うございます。御蔭様にて全快いたします。」

「なほ貴君は御如才もございせんが、精々御加養遊さるやう、爾して一日も早く、御本復なさるやうお願ひいたします。」

舍弟の病氣見舞

「父より聞いて駈けつけてきたが、御前は此頃病氣であるさうだが怎

うしました、少しは快方ですか。食事はどうです、進まない？。進まないままにしてのちや、病氣は反つて暮る。食べたい物は何でもどしどし言てよこしなさい。病氣は氣からといふこともあるから、そんな氣の弱いことをいつてのちや、病氣は長引くばかりです。元來御前は頑健を鼻にかけて不攝生であつたからさうした病魔に襲はれたのです。これからは醫者の言葉を守り、養生をして、早速く平癒するやう頼みます。此の梨は頗る滋養に富んでゐるものだから徒然の時召あがれ。」

令姉の病氣見舞

「暫時御無沙汰致しました。皆様御變りないものと思ひまして御伺ひ

も致しませんでゐました處昨日不圖〇〇君に電車の中で御逢ひ申して御令妹の御病氣を承はりました。大層驚きました。今日頃のご容態は如何でございませう、餘程快方とは聞きましたか。」

「有難うございます、然し何んといつても病氣が病氣でございませう、熱が大分ございまして然し早くあれに癒つて貰はなくちや、なんとも詮方がございませぬ。」

「御病名は肺患だと承きましたか、然しお若い方ではあり、御婦人には珍らしい位、平生が御丈夫の方でございませうから、御心配もございませんでせうが、とにかく御養生は第一でございませう。」

「有難うございます。肺患だといつても、初期の初期、醫者も心配は

ないといつてくれましたから、幾分かは安心してございます。』

「そうでございますとも、たとへ三期になりましたとて、手入一つで
 どうにもなるのでございますから、先づ御養生第一でございます。」

「海岸に轉地させやうと思つてをります。』

「此れは御見舞の印まで差し上げます。何んか御病人のお好きな物をお求めなすつて頂きます。實は何んか御口に合ふ物を買つて參らうと思ひましたが、心當りもございませんものですから、失禮でございますが、誠に僅かばかり。』

「御出で下すつたばかりも、有難く思つてございますのに、御金まで頂戴いたしましたし、なんとも忝けなうぞんじます。御遠慮なく頂戴いた

します、妹も嘸ぞ喜ぶでございます。』

●●●●●
 負傷見舞の言葉

「〇〇君より伺つたのでございますが、電車でお怪我なされたさうで、嘸々御愁傷でございますけれども、たいしたことでもないとの事でございますから、不幸中の幸でございます。それといふもお勤務のためでございますが、いはゞ名譽の負傷でございます。』

「態々の御見舞、有難うございます。幸にして大したことでござい
 ませんから、その上氣分に於ては何んの變りもございせんから、今
 後心配ないと思ひます。奥様へもよろしく申し傳へを御願ひ致しま
 す。』

痛しく思ひます○一人ばかりの御娘さんに逝いかれましてごになにか御力落しいたせう○こんなことになるゆめとは夢にも知らなかつた、誠にいたしいことをしました。

諸禮法
婚禮式

世間百般挨拶の仕方

(終)

昭和十五年六月一日印刷
昭和十五年六月五日發行

定價金壹圓五拾錢

不許
複製

著者 吉材正夫

發行者 宮本彰三

印刷者 幸松一雄

發行所

大坂市東淀川區西町赤十字牌
國民書院

電話北二九一七番
振替大坂九三〇四番

●文學士 小宮庫治先生著
詳漢和大辭典
 總クローリス。金文字入特製函入。無八千有餘。總語數無慮十二萬語！

定價三圓八十錢 特價一圓卅錢
 の處一千部限り 送料(前金十五錢) 代引卅五錢
 紙數壹々一千五百頁！万人必備の漢和辭典！！
 國語研究会編纂 ▼詳典界の覇王！

新案用 いろは辞典

引きよよい、見よよい、探りよよい、覺へよよいので大
 好野！本書は新考案の六段式なれば普通字引の大
 千八百頁の内容を三箇位の價値に充分ある。▼
 ▼最新型洋裝美本クローリス金文字函入
 定價一圓五十錢 前金送料不要
 代引十六錢増

現代新語大辞典

近時種々の新熟語、外國語、流行語、舶來語等
 盛に使用せられ新聞雜誌を讀んでも演説を聞か
 ても意味が分らず時代遅れの人聞かして馬鹿に
 される。本書は之等新語を網羅し解釋して馬鹿に
 ならない。

●今井襄兒先生著
常漢和大辞典
 クローリス金文字入。函入。美本。特價四十九錢。代引廿錢増

文部會の國定教科書に選定せる常用漢字及び熟語
 類語を編纂せるもので、各家庭は勿論事務家、小中
 學生の學習用として熱狂的大好評を博しつゝあり

新英和辞典

●谷口 敏先生著
 總革製紙質極上等
 特價金二十一圓
 送料(前金十五錢) 代引三十錢

▼最も完全な英和辭典！英語學習者は本書の如き
 理想的最良辭典を備へられよ！！

通俗經濟學講話

●小原 啓三郎先生著
 菊列全十一冊
 特價八十五錢
 送料(前金廿五錢) 代引十五錢

通俗平易にして誰にもわかる經濟學！我等の日常
 生活は殆んど經濟生活である。經濟學を讀まない人
 ては立身出世は覺束ない。さ解かる苦心の著述なり。

日常法律百科辞典

●法律研究会編纂
 四六版函入定價二圓 特價一圓十錢 代引十五錢増

407
113

